



## 校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ②4

令和2年11月26日（金）

### 「気持ち・気迫」

今年のプロ野球（NPB）は、新型コロナウイルス感染の影響により試合数も120試合に短縮され、約2か月遅れの6月に開幕しました。今年の日本一を決める日本シリーズは、昨年を引き続き、パリーグの福岡ソフトバンクホークスとセリーグの読売ジャイアンツの対戦で行われましたが、結果は、今年も昨年と全く同じ福岡ソフトバンクホークスの4連勝で、一昨日25日に閉幕しました。

ホークスの強さが際立ったシリーズでしたが、テレビ観戦をしていて私が気になったことは、ベンチの様子が映し出された時の両チームの様子（雰囲気）があまりにも違うことでした。ホークスベンチはピンチの時もチャンスの時も、どの場面でもベンチが一丸となって、大きな声が出ていたのに対して、ジャイアンツベンチは、どの試合どの場面でも声が出ているようには見えませんでしたし、ベンチにいる選手がみんな下を向いて、沈んでいるような雰囲気を感じました。

もちろん、ジャイアンツは4試合のほとんどが劣勢でしたから、負けているチームは元気がなかなか出ないでしょうし、沈みがちになることも致し方ないことかもしれません。それにしてもホークスベンチとジャイアンツベンチの雰囲気の違いは、あまりにも対照的なものでした。

昨年に続き、日本シリーズは一方的な結果になりましたが、それはチームや選手個々の力の差もさることながら、それ以上にベンチの様子に表れていた両チームの「何か」の差であったのではないかと思います。

11月24日の日本シリーズ第3戦、ホークス2点リードの6回2アウト満塁で、牧原選手の代打で打席に立った長谷川勇也選手の一打は、あわや1、2塁間を破るタイムリーヒットになるのではないかと素晴らしい当たりでしたが、ジャイアンツの二塁手・吉川選手のファインプレーに阻まれ、間一髪アウトになりました。長谷川選手は首位打者・最多安打も獲得した35歳のベテラン選手です。そんな選手が、高校野球のように1塁にヘッドスライディングし、アウトになった時

にグラウンドを力いっぱい叩いて、その悔しさを露わにした姿に多くの人は感動しました。

かつてはレギュラー選手であり、首位打者や最多安打も獲得した長谷川選手ですが、足の故障のために、現在の彼の役割は、ここ一番！という大事な場面での代打です。そこで結果を出すために、長谷川選手自身が「自分が代打をするようになって、それまで以上に1打席の大切さ、重みを痛感するようになった。」と語っているように、心技体すべての面での準備はもちろん、ベンチから相手ピッチャーの配給を読み、狙い球を定めて打席に入り、初球から全神経を研ぎ澄ました戦いを挑んでいるからこそ、その結果に心の底から喜んだり、悔しがったりできるのだと思います。

35歳のベテラン、タイトルホルダーの長谷川選手が、なりふり構わずヘッドスライディングをして、グラウンドを叩いて悔しがるあの姿を見るだけで、彼の準備がいかに凄いものであるか、1打席にかける「思い」の強さ、「絶対に打ってチームの勝利のために得点するんだ！」という「気持ち」と「気迫」が見ている私たちにまでグッと迫ってくるのを感じました。

何事も、一定のレベルに到達した人たちにとって、結果を左右するのは、技術や能力以上に、そこに臨む「気持ち」や「気迫」ではないでしょうか。そのことをこの日本シリーズでのホークスのベンチの雰囲気や長谷川選手のプレイが、改めて私たちに教えてくれたような気がするのです。

言うまでもなく、私たちは機械や道具ではなく「人間」です。「人間」であるからこそ、結果を左右するのは、最後は「気持ち」や「気迫」に尽きると思います。どんなに苦しい局面、厳しく辛い局面にあっても、否、そんな局面にある時だからこそ、「気持ち」や「気迫」では決して負けることがあってはならないのだと思います。

今年1年間、不調が続き不本意なシーズンであったホークスのベテラン、マッチこと松田選手は、自分がどんなに調子が悪い時でも1年間その明るさを失くすことなく、毎試合声がかかるほど声を出し、仲間を鼓舞してきました。その姿は、まさに「気持ち」や「気迫」で負けない姿を具現化したものでした。ジャイアンツの選手に足りなかった「何か」。それは、長谷川選手や松田選手をはじめとするホークスの選手たちにあった「気持ち」の強さや「気迫」であったのかもしれない。

私たちもホークスの選手たちの姿に学びたいと思います。

先週も「新型コロナウイルス感染対策への『慣れ』と『油断』を完全に払拭し、今年最高度の新型コロナウイルス感染対策を徹底してください！」と述べましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の勢いが止まりません！

新型コロナウイルスの感染拡大は、今年最大の危機を迎えていると言っても過言ではありません。引き続き、ひとり一人が感染予防に最大限気を配り、「三密の回避」・「人との距離」・「手指消毒」・「換気」にこれまで以上に徹底的に取り組んでいきましょう！！

来週は、いよいよ12月に入ります。グッと冷え込んでくるという予報も出ています。

「うがい・手洗いの徹底」、「最低5時間の睡眠時間確保」、「3度の食事をしっかり摂る」を徹底することで、新型コロナウイルスはもとより、風邪やインフルエンザにかからないように、万全の健康管理に努めてください。

校長 深瀬 信也